

＜令和8年度 全国学力・学習状況調査結果分析＞

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



(神奈川県基準)



(神奈川県基準)



令和8年度 全国学力・学習状況調査 平均正答率

正答率	国語 (%)	算数 (%)
北山田小 6年	63	62
神奈川県 (公立)	61	58
全国 (公立)	60.9	56.4

【成果】

国語：全体的に全国・神奈川県の平均を上回っている。思考・判断・表現では、文章構成を捉えたり、叙述をもとに登場人物の気持ちを捉えたりする力がある。知識・技能では、「言葉の特徴や使い方に関する事項について」、思考力・判断力・表現力では、「読むこと」をよく理解している。特に、言葉の特徴や使い方に関する事項についての力が全国・神奈川県ともにより大きく上回っている。

算数：算数は全国平均よりもおおむね正答率が高く、思考・判断・表現、知識・技能を問う問題共に解く力が身についている。特にデータの活用や変化と関係の問題は全国・神奈川県ともに大きく上回っている。

【課題】

国語：全体的には、思考力・判断力・表現力の「書くこと」が神奈川県の平均と比べて低かった。また、学年の漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題の無回答が他の問題よりも多い。

算数：変化と関係を捉える問題の正答率が低い。また、問題形式が記述式の正答率も低くなった。

【今後に向けて】

国語は、書く力を身に付けるために、自分の気持ちや考えが伝わるように書き表したり、文章全体の構成や展開を考えて要旨にまとめたりするなどの学習を重ねていく。また、資料や教科書のどの部分から感じたのか根拠を明らかにしたり、自分の考えを伝える場面をペア学習やグループ学習などで取り入れたりする。

算数では、図形の学習をより丁寧に見取り指導していく。また、国語と同様に考えを表現したり、解き方を説明できるようなペアやグループで話し合う場面を取り入れたりしていく。